



A monopoly of Love

Levi x Eren
Unofficial Fanbook #7
Gravity / ZERO

R18
Adult Only



最後に故郷の地を
踏んだのは
いつだっただろうか



自国のために
剣を振るい、命を賭す

それが正義であり
自由だと思っていた

それなのに



翼をもがれて

このクソ屈々しい
足枷さえなければ

多少はマシ
なんですけどね

籠に閉じ込められた

哀れな鳥だ



ひびく

相変わらず
高利率な
結構嫌だな

アンの
目的は何だ

こんな部屋に
手厚く閉じ込めて
何がしたいんだ？

アルミンと
ミカサだったな？

お前の大事な
幼馴染は

今は人質として
生かしているが

お前の出方次第では
明日には首と胸が
泣き別れになるぞ

ツてめえ……

自分の言動には
気を付けることだ























自分が

彼は気付いて
いるのだろうか

彼に触れて
いるのかを

どれだけ
愛おしげに

一目見て
分かった

彼を愛して
いるのだと

でもキングは
彼に何も伝えず

私に一言

秘密だ、と言った



大國を敵に
回そうと



民衆にどれだけ
罵まれようと



守っている
ことを



人質にとる
フリをしながら

本気ならすぐに
処刑される人達を



彼は？ こと 明かさないうもりなのだろうか



………
本意に

不器用な人



一目見て 手に入れたと思った





燃え上がるような
金色の瞳を光らせて



母親は幼少期に
病死……

直後に父親は
行方不明か

アルミン・アルレルト

ミカサ・アッカーマン



こちらの要求は
ただ一つ

エレン・イエーガーの
引き渡し

そうすれば
同盟も結んで
物資の交換も
できるのに

なんで
拒むかなあ

あとの人間は
好きにしてい

悪いことじゃ
ないでしょ





お前の要求は
却下だ

うるせえ



せっかくこっちが
大人しく交渉して
やってくるのに



あーやだやだ

話が通じない奴は
嫌いなんだよね



ミアイツに
手を出したら



自分の立場が
分かってないのかな

実力行使させる
つもりなの？

そっちがその気なら
こっちも応じるだけだ



殺す



人類最強の
兵士様

怖いなあ……
だからアンタは
敵に回したく
ないんだよ



アイツを
手に人ねたいなら

まず俺を殺せ



どんな条件を
持ち出しても



俺がいる限り
全て無駄だ





——そうだ

俺が睡っている限り
お前は俺を
憎悪し続けるだろう



お前にとって
最も強い感情は
愛情のような
生温いものじゃない



同じ感情を
向けて欲しいとは
思わない

全てを喰らい尽くそうとする

その美しい両の目を



どうも、僕だけに向けてくれ



他のものは何も 見なくていい



お前にとって最も強い感情を

僕だけに 向けてくれるのなら

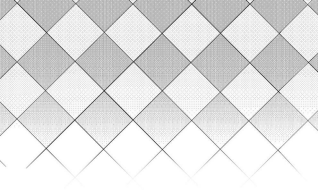


それ以上は何も 求めたりしない



お前が俺だけを
見てくれるのなら

何を犠牲にしても
構わない



こんにちは、ZEROと申します。
この度はお手にとりいただきありがとうございます。
キンプリバロを一度がっつり描いてみたかったので
今回本に出来て満足です。

今まで原作軸多めで描いていたので
衣装や世界観などの違いにあたふたしながら
苦戦しつつ描きましたが、とても楽しかったです。
何度プリエのストライプ柄を忘れそうになったことか…
ジークはこの本で初めて描いたけど楽しかった…眼鏡…

キングとプリエの関係を
直接把握しているのはベトラさんだけです
プリエの事後の姿を、鑑賞する部下とはいえ
他の男の目に触れさせたくなかったのも
女性であるベトラさんにだけは告げました。
そんな不器用な男心も含めて
強い部下は察していたと思います。

A monopoly of Love 愛の独占

キングって
どんな人なんですか？

…それは
私個人への
質問かしら？

…別に
答えたくないなら
いいです

あ…
水くれませんか

妙なマネとか
しないので…

分かってるわ

私も伊達に
キングの側近を
してる訳じゃ
ないのよ





いくら押し寄せ



名前を
呼ばれたら



…あんな風に
触れられて



分からないはずがない



傷だらけの体を
壊れ物のように
触れてくる手も



汗を滴らせながら
堪えるように吐く
熱い息遣いも

まるで愛しい人に
向けるかのように



気付かなければ
苦しなくて
良かったのに

だけどオレは あの人を憎むことしかできない



もしオレが
好意を向けたら

敵意がないと
分かったら

あの方は二度と
オレに触れないかも
しれない



最初に捕まった時は
本気で殺して
逃げようと思っていた

相手が何者だろうが
関係なかった

それが今じゃ
このザマだ

足枷つけられて
捕らわれて

女みたいに足を開いて
必死に受け入れて

無様に喘ぎながら
足掻くフリをする

貴方の熱に
触れるために

いっそ最初に
殺してくれば
良かったのに



何も知らず貴王の命を奪われたら、どんなに良かったら、か



……
ほんと、

馬鹿だな、オレ

これから言うことは
オレの独り言です



アンタがさっき
言ってたことは
真実だと思う



アンタは
口が堅くて
良い人だと
思うから



これはオレの
勘だけど



本番にオレを
阻害させようと
するなら

横断するなり
目の前で仲間を
殺すなり
すればいいのに

いつしてくるのかと
身振えてみれば
一向にしてこない



孤独な自分を
隠すために

嘘と真実で固めてる
馬鹿な男だ



アルミンや
ミカサのことは
分かんねえけど…



危害を加えてたら
許さねえけど
もしかしたら…

だからオレも
あの人が自分から
本心を明かすまで

この下らない
意地を張り続けて
やるんだ

それでいつか
本心を明かした時には
こう言ってる

ずっと前から
知ってたぞってな

同じ感情を
向けてもらおうなんて
思っていないかった

魔力に任せて
その体に触れるだけで
良いと思っていた

だけど

前言撤回だ
意地を張るのは
もうやめる

どうか俺に
寄越してくれ

お前という存在の全てを

